



# All Rikkyo Tennis

## セントポールテニスクラブ会報

発行所  
セントポールテニスクラブ

発行人 白 寄 誠 爾  
山 崎 絢 史 郎  
高 津 香 和 奈

# 男子4部優勝3部昇格、女子3部3位



### 「男子3部昇格」

平成22年度の関東大学テニスリーグで男子は、平成19年に4部降格以来3年ぶりに3部へ昇格致しました。初戦の城西大を9-0で完勝し、成城大、千葉大、横浜国大、上智大と5戦全勝で、4部優勝を成し遂げました。5戦45ポイントを得、39勝6敗の成績をあげました。これは、昭和53年のリーグ戦から各部6校制になったわけであり、6校制32年の歴史の中で立教大学リーグ戦史上、最高勝率であり、4校制の時代を含めても、2番目の高勝率であります。



9月25日の順天大との入替戦には、多数のOB・OG、立教中高生が駆けつけ、3部昇格を応援致しました。女子は、1年生主体の若いチームであり、初戦2戦とリーグ戦独特の緊張感に力を発揮できませんでしたが、徐々に雰囲気にも慣れ3勝を上げ、3位に引き込みました。特に過去男子女子共に、勝利できなかった東農大コートでの勝ちの特筆すべきであり、来年の躍進を期待させるものである。

### 「部員全員のリーダーシップ」

テニス部長 日向野 幹也

本年度四月より立教大学テニス部部長に着任した日向野(ひがの)です。学生教育の面では経営学部のリーダーシップ開発プログラム(BLP)の責任者としております。テニスは高校で始めて、いまでも週一回は地元のテニスクラブで楽しんでおります。テニスは好きですが、部員諸君のテニスのレベルに達したことは一度もありません。ですが部員諸君のチームワークやリーダーシップについてはいろいろ気がつくところがあります。

今年の総会でも申し上げた、部活におけるリーダーシップの重要性は強調しすぎることはないと考えていますので、ここで改めて詳説したいと思っております。これは体育会だけでなく、企業や社会で今後ますます必要とされるスキルでもあるからです。言い換えると、部活でこうしたスキルを磨いておくと、それは部員一人一人の将来のためにもなるという一石二鳥なのです。体育会出身者は体力とガッツがあるから重宝されるというのは表面的な見方です。体育会はそれより

ももっと重要な学びの機会を提供してくれるのです。以下にその理由を説明してみましよう。

グループ全体で成果を

あげるためには、リーダーシップと専門知識の両方が自転車の両輪のように必要です。テニス部で言えば、前輪(リーダーシップ)と後輪(テニスの技術)の両方がチーム全体として必要ということになります。そしてこの前輪のリーダーシップはさらに三つの要素に分解できます。積極性・配慮・成果達成力の三つです。積極性は、三つの要素のなかでもっとも基本的で、フットワークは軽く、言いたいことも言うべきことは言うこと。配慮は例えば言いづらいことを言ったときに仲間の気持ちに配慮すること、最後に成果達成力は、小は締め切りをしっかりと守ること、大はビジョンを示したりゴールを設定することです。

部員は誰でも、後輪のテニスの技量を磨くとともに、前輪のリーダーシップ三要素のすべて、それが無理ならせめて一つか二つを持つようにすべきです。前輪の要素がゼロの部員は、どんなにテニスが強くても(つまりどんなに後輪が強くても)、それは傭兵みたいなもので他の部員にプラスの影響がなくて、部としての団結には貢献していないことになるからです。

また、後輪が強力な人(テニスが強いの)ほど前輪が強力かというところとは限りません。むしろ後輪が強い人が前輪の三要素の一部しか持っていないことは全然珍しくないでしょう(先述したように、前輪要素ゼロで傭兵になってしまうのでそれは無いとしてもです)。そういうときこそ

リーダーシップスキルの三つを皆で分担すればよいのです。分担するときにもっとも肝心なのは、必要な要素は三つのうちのどの要素が今の部に不足しているのかをいつも皆でチェックすることです。下級生のほうがテニスが強くなる状況でも、分担が必要なのは全く同様です。下級生がテニスの力を発揮しやすいように上級生がリーダーシップを発揮することがチームワーク全体のためになります。これは会社で、できる部下に気持ちよく存分に力を発揮してもらう環境を整えるというリーダーシップ・スタイルは、部下(下級生)に奉仕することです。実はチームとしての成果を生む近道になっているという意味で、サー

バント・リーダーシップ(奉仕するリーダーシップ)と呼ばれることもあります。言われるままに奉仕するだけなら単にサーバント(召使い)ですが、チームとしての成果のためになる、と判断する限りで奉仕するという意味でこれもリーダーシップです。(蛇足ですが、現代では、企業はもろろんのこと、上意下達システムの典型であるかのように思われがちな軍隊においてすらこうした上司の役割が重視されており、士官、特に百人くらいまでの隊を率いる下級将校と下士官の役割はこれに尽きるといえるのが世界のミリタリーのトレンドだそうです)

最後に重要なことを一つ。ここまでリーダーシップをスキルであると書いてきました。これは、リーダーシップは天性の才能ではなく経験と学習によって上達しうる技術であるという意味です。従って、部員はもろろんのこと、主将も主務も副務もこれから経験と学習によってリーダーシップ・スキルを向上させていく過程にあるということです。自転車の前輪と後輪の両方を強化すべく「学習する組織」。これはわれらがテニス部にぴったりかなと思います。いかがでしょう。

最後に重要なことを一つ。ここまでリーダーシップをスキルであると書いてきました。これは、リーダーシップは天性の才能ではなく経験と学習によって上達しうる技術であるという意味です。従って、部員はもろろんのこと、主将も主務も副務もこれから経験と学習によってリーダーシップ・スキルを向上させていく過程にあるということです。自転車の前輪と後輪の両方を強化すべく「学習する組織」。これはわれらがテニス部にぴったりかなと思います。いかがでしょう。

『会長挨拶』

S 42年卒 出口 誠之
セントポールテニススク
ラブの会員の皆様に於か
れましたは、益々健康で、
御活躍のこととお喜び申
し上げます。

一昨年来理事會を中心
に、各委員会を設け、O
B・OGの各位に献身的
にご活躍を頂き、少しづ
つですが良い結果が表れ
てきました。

現役強化委員会による
数回の検討によって作成
された、第二回の体育會
活動奨励金『活性化プロ
ジェクト計画書』の提出
によって、220万円の
奨励金を受領出来ました。

又、アスリート選抜入
試、自由選抜入試、付属
高校からの入学等により
部員の確保もできました。
一方、現役強化本部は、
総監督、男女各監督、コー
チによる指導体制のもと、
新たにプロコーチを招聘
し、リーグ戦に臨むこと
が出来ました。

この結果、本年度のリー
グ戦は、男子においては、
四部とは言え、過去最高
の勝利ポイントで、入替
戦に臨み、相手校を圧倒
し三部に昇格できました。
また女子においては、

新一年生主体のメンバ
ーでリーグ戦に臨みまし
たが、経験不足からの一
、二戦の敗戦が、響き残念
ながら、三部残留となり
ました。来年の二部昇格
を期待しております。

今更でテニス部、部長
の伊沢先生が退任されま
した。長い間ご指導有難
うございました。また、
伊沢先生の後任の部長と
して、日向野先生が就任
されました。先生におか

れましては、就任早々現
役部員に対し、部員とし
ての心構えに就いてご指
導頂き、テニスを通じて
の学生生活を指導頂きま
した。
現役諸君は、この歴史
ある立教大学テニス部の
一員として、四年間、テ
ニスの技術的な向上はも
とより、学業を含め、人
間としての向上を高め下
さい。
二〇一六年にはテニス
部創部一〇〇周年を迎え
ます。六年後には男子部、
女子部とも一部リーグの
中で優勝を目標に頑張り
ている事を願っております。
二二年度もOB・OG
の皆様から年会費、一〇
〇周年の募金、激励會へ
の寄付等、ご支援、ご協
力を戴きましたことに対
し心から感謝を申し上げ
ます。
今後のテニス部の発展
に引き続きご理解ご協力
を賜りますようお願いし
上げ挨拶とさせていただきます。

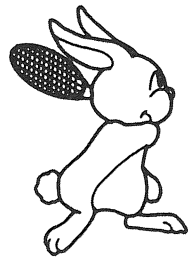
『ゆとり世代』

S 60年卒 藤原 誠之

理事長と全く無関係で
すが、小生の仕事の関係
で最近「平成ゆとり世代」
についてよく耳にします。
平成四年ころから始ま
り平成十四年(今の三年
生が中学入学した年です
ね)から本格導入されて
おり、個性を重視し自ら
学び自ら考える教育方針
です。
ゆとり世代の特徴とし
て良く言われるのは、「マ
ニユアルどおりに行
うことは得意だが、書い

ていないことを注意す
る」と、先に言うておいて
も「聞けば反応
するが、自ら主張はしな
い」「暗黙知や経験知な
どの価値が理解できない」
など。
教育方針と出来上がり
が真逆で面白いですね。
何となく肯けるものもあ
つたりして...
現役諸君にはこのよう
な風評を吹っ飛ばすよう
な自主性とガッツを期待
します。
ちなみに「打ち解ける
まで時間がかかるので、
ETCのように心のバ
ーが開くまでは、上司や先
輩はスピードの出過ぎ
にご用心。」だそうです
(笑)。

第十五回総会 開かれる



去る六月二十六日(土)
セントポールテニススク
ラ第十五回総会が、多数
のOB・OGの方々のご
出席を頂き池袋キャン
パスの第一食堂にて開催
されました。会計報告・予
算・事業計画など慎重な
審議が行なわれました。
総会後は現役幹部を交え
和やかな懇親会が開かれ
ました。
下記に総会の決定事項
をご報告いたします。

ていことを注意する
と、先に言うておいて
も「聞けば反応
するが、自ら主張はしな
い」「暗黙知や経験知な
どの価値が理解できない」
など。
教育方針と出来上がり
が真逆で面白いですね。
何となく肯けるものもあ
つたりして...
現役諸君にはこのよう
な風評を吹っ飛ばすよう
な自主性とガッツを期待
します。
ちなみに「打ち解ける
まで時間がかかるので、
ETCのように心のバ
ーが開くまでは、上司や先
輩はスピードの出過ぎ
にご用心。」だそうです
(笑)。

平成22年度役員

Table of平成22年度役員 with columns for position, name, and graduation year.

平成22年度事業計画書

(自平成22年4月1日～至平成23年3月31日)

Table of平成22年度事業計画書 with columns for date, event name, and location.

平成21年度事業報告書

(自平成21年4月1日～至平成22年3月31日)

Table of平成21年度事業報告書 with columns for date, event name, and location.

平成22年度会計予算

(自平成22年4月1日～至平成23年3月31日)

Table of平成22年度会計予算 (Income) with columns for item, budget, and details.

Table of平成22年度会計予算 (Expenditure) with columns for item, budget, and details.

平成21年度決算報告書

(自平成21年4月1日～至平成22年3月31日)

Table of平成21年度決算報告書 (Income) with columns for item, budget, actual, and details.

Table of平成21年度決算報告書 (Expenditure) with columns for item, budget, actual, and details.

Table of平成21年度決算報告書 (Assets) with columns for item, amount, and details.

指導者招聘関連費用 828,000円(①=②+③+④)
通常分 一日7時間×③3,000×32週=672,000円(②)
合宿分 一日7時間×③3,000×2日×春夏=84,000円(③)
交通費 ②2,000円×月3回×12ヶ月=72,000円(④)
経済支援による補助=578,000円(⑤)
\*SPTCによる補助=250,000円(①-⑤)

(参考資料)
100周年募金額 7,003,281

- List of staff members and their roles, including 100周年準備委員会, 現役強化本部, and 現役強化委員会.

平成22年度リーグ戦結果

男子リーグ戦結果表。立教大学、上智大学、成城大学、千葉大学、城西大学、横浜国立大学の対戦成績と順位を示す。

入替戦 対 順天堂大学 5 - 4

女子リーグ戦結果表。明治大学、上武大学、立教大学、東洋学園大学、東京農業大学、学習院大学の対戦成績と順位を示す。



「リーグ戦総括」

総監督 中島 幸彦

「何が何でも昇格する!!」今年の男子チームは私以下、監督・コーチングスタッフ・部員が一致してこの「思い」を共有し、一人一人がその持ち場で全力を尽し目標にチャレンジしたリーグ戦でありました。

夏合宿で芽生えてきた「団結力」はリーグ戦での勝利の度に結実が強く、我々にとどまらず立教中・立教高のテニス部員、OB、OG、関係各員に至る「熱き心」となり「昇格!」という結果となったと確信しております。選手・部員達も最後までよく頑張り通しました。賞賛に値します。一方、女子チームは一年生のめざましい活躍がリーグ・三位への躍進となり、将来への明るい希望をもたらし、これまでも部員全員が頑張り、立教女子チームとして淑女を育て上げて来た。旧来の女子チーム体質と「勝利第一!」を求めて行く選手指向の部活体質は、部内において並び立たず、女子チームが長く内包してきたまとまりの無いままでもリーグ戦を戦う事となりました。私の指導不足であり反省しております。

「10の30年」

男子監督 武市 広治

立教中学1年でテニスを始めた。テニスが何なのか分からなかった。そして段々理由もわかってきた。高校のテニス部に入部した。先輩は皆上手く、近づきたいと思ったが、どうすればいいかわからなかった。大学に入り、体育会テニス部に入った。1年のときはがむしやりにボールボーイをした。4年間で降格も昇格も味わったが、最後まで「勝ち方」がわからなかった。そのまま社会人となり、いつしかテニスにも興味なくなってきた。そして現役のことはいっせいで終わった。29歳のときにまたテニスを始めた。勝ち方がわかり始めた。人生最後の試合で有明の1番コートに立った。調子は良かったが、相手がなぜミスしたのか、かわからなかった。数年後、コーチになっていく。わかんないなりに伝えた。これは山ほどあった。しかし監督になってからその伝え方がわからなかった。この6年間、期待した選手がこぞというときに何度も敗れた。そして監督最後の試合。現役はそれぞれの経験をステップに、確実に成長していった。そんな中、何事も裏切られ、それでも信じていた男が最も緊張する場面。最高のプレーをした。テニスとはとても奥が深いと感じたが、結局最後までわからなかった。でもこの30年で2つだけわかったことがあった。自分は周りの人に支えられていた。そして立教が好きだった。そして立教が30年間、ありがとうございます。

「一球に泣いた」

女子監督 清 隆一郎

今年もたくさんの方々、コートまで足を、お運び頂きまことにありがとうございました。戸澤、塚田、渡邊と三代に渡り悔しさを、四年間背負い続けた、横山には、是非とも勝ってもらいたいと臨んだ戦いでしたが、結果は大変厳しいものとなってしまった事お詫びいたします。その敗因といえる一つに、戦う前の心構え、気持ちに「あつたと思われれる。チームのみならず私にも上武大、明治大には敵しいのでは、という気持ちに少なからず心のどこかにあつたのではないかと。それに比べて相手校は「立教なんかには負けていたら二部昇格なんて出来る訳ない」という気持ちの差が、ここで一球ポイントが欲しいという時にはつきりと表れてしまったのではないかと考えられる。今年の悔しい気持ちを活かし来年へ向けて、大事なポイントの時こそ、自信を持ってプレー出来る様に練習を積んでもらいたい。そして五年ぶりの昇格を目指し、今度こそ上武大、明治大を撃破してほしい。十月の父隆彦の葬儀には多数のテニス部の方々、現役諸君の列席を賜り、まことにありがとうございます。

男子主将

緒形 昌輝



この度、テニス部を引退させて頂くことになりました。現代心理学部心理学科4年の緒形昌輝と申します。3年半の現役生活を通して大学生活を実り多きものとできたことに、テニス部に関わったことに、お礼申し上げます。私のお礼申し上げます。1つは達成感です。目標を達成し、JOP、インカレ出場、国体出場、JOP100位以内を目標に掲げ、結果は、3部昇格、関東学生本戦出場、国体選手までと2ゲームも選んで、JOPはダブルスでも1つ上を目指さなければ届かないのが目標です。届かないのが目標で、届かないのが目標、やりすぎた。アクションの積み重ねが目標への準備だと思いがかりました。しかし、この1年間の目標が3部昇格を果たすことができたのは、今までの昇格したことがほとんど、選手、応援、サポート、監督、コーチを始めとしてOB、OGの方々、立教中学生・高校生が、丸となったという事実が、何にも代え難く貴重な経験となりました。来年度は、ぜひOBの一員として2部昇格の現場に立ち会いたいと思っております。最後に、3年半の間、心強いご声援と、厳しいご指導を下さったOB、OGの皆様には心より感謝申し上げます。これから、OBの一員として貢献していきたいと考えております。これからもよろしくお願い致します。

女子前主将

横山 由貴



昨年度主将を務めさせて頂いた頂きました、文学部キリスト教学科四年横山由貴です。私は入部から引退まで一緒に過ごした同期は、辛く、心細く感じました。辛く、心細く感じたときもありました。その中で4年間続けたこと、それが出来たのは素晴らしい先輩や後輩達に恵まれ、監督・コーチ、OB、OGの方々から支えて頂いたからです。この経験は他人では学ぶことができない、貴重な経験だと感じています。私は立教大学体育会テニス部に入部して後悔したことはありません。とても充実した4年間を過ごすことができました。4年間を振り返ってみると、やはり最後の一年が一番濃く、あつたという間に過ぎていきました。主将として迎えた最後のリーグ戦、三部残留という結果で終わってしまいましたが、悔しさが込み上げてきます。二部昇格は一年生のときからの目標でした。三年間達成出来なかった。三年間達成出来なかった先輩達の悔しさを私の代で晴らしたいという思いがありました。それを果たせたいという思いが、私が引退してしまふことが大変心残りです。これから後輩達にその想いを託すだけではない、微力ながら力になれようと考えています。OB、OGの方々には、これからもお世話になりました。四年間ありがとうございました。

男子前副将

米津 吉晃



前年度副将を務めさせて頂いた頂きました、経済学部経済学科四年米津吉晃です。4年間のテニス部生活を通してたくさんの方々と体験をすることが出来てとても感謝しています。リーグ戦には毎年出させてもらいましたが、二・三年目は、いい結果を残すことができませんでした。いい思いをしてきました。しかし、最後のリーグ戦、全勝を目標にしていたのですが、一敗してしまいました。悔やまれる部分もありましたが、入れ替え戦では勝利することができ、チーム一丸となって昇格することが出来ました。チーム全員の勝ちたいという気持ち、監督・コーチの方々のご指導、そして、OB、OGの方々のご支援・ご声援が力になりました。勝つことが出来ました。私は、この4年間に悔いはありません。いいチームにめぐり会えたこと、よってとても充実した大学生活を送ることが出来ました。テニス部の仲間にも感謝したいと思っております。4年間という時間はあっという間に過ぎてしまいました。部活動でまいりましたが、部活動で学んだものをこれから私生活で活かしたいと思っております。そして、次の代以降の部員にはもっと上にいけるように頑張ってもらいたいと思います。監督・コーチの方々、OB、OGの方々には、本当にお世話になりました。今までもありがとうございました。



### 新入生紹介

1年 池田 和貴



埼玉県私立立教新座高等学校出身、経済学部経済学科一年の池田和貴です。私は中学三年生の時にテニスを始め、高校時代はテニス部に所属してました。高校の部活動では、真剣にテニスに打ち込むことなく三年間が過ぎてしまいました。そのため、個人戦での結果も満足できるものではなく、中途半端な成績しか残すことができませんでした。このように悔しい思いをしてきた時、大学の練習に参加させて頂きました。その時の大学生たちの真剣にテニスに取り組んでいる姿や、大学テニスのレベルの高さに感銘を受け、体育会テニス部に所属することを決意致しました。

入部当初は、想像以上に厳しい練習に戸惑いながらも、毎日の練習を繰り返して上達していると感じています。今年のリーグ戦は三部昇格という素晴らしい形で終えることが出来ました。しかし、私は試合に出ることが出来ず、悔しい思いをいたしました。来年は二部昇格という結果を選手として残すことが出来るように日々精進していきたいと思っております。そして、個人戦でも単複ともに関東学生やインカレに出ることを目標として妥協せず努力していきます。最後に、OB・OGの方々のご支援のおかげで、この感謝の気持ちを忘れず、一杯練習に励んでいきますので今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

1年 大竹 徹



埼玉県私立立教新座高等学校出身、経済学部経済学科一年の大竹徹です。私は中学受験により立教新座中学校に入学し、部活動としてテニス部に入部しました。中学時代には全国中学生大会に、高校時代は関東ジュニアに出場することができた事が私の誇りです。中学高校と立教の名を背負ってテニスをやってきたので、大学でも立教という名を背負って真剣にテニスに打ち込みたいと思いい、この度は体育会テニス部に所属させて頂いたことに感謝して参りました。

入部当初は練習が厳しく、一年としての仕事やまわりのサークルの人の楽しそうな姿を見て、新しい環境でテニスを続けたいという不安な気持ちもありましたが、先輩や同期の頑張る姿を見て、自分も部活を続けることが出来ました。今年のリーグ戦では主としてダブルスに出場させて頂いたのですが、昇格することが出来ず、悔しい思いをいたしました。来年は二部昇格を果すことが出来れば、今年よりもっと頑張りたいです。OBやOGの方々のご支援のおかげで、この感謝の気持ちを忘れず、一杯練習に励んでいきますので今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

1年 加畑 晃成



静岡県立磐田南高等学校出身、経済学部経済学科一年、加畑晃成です。私は高校に入学してからテニスを本格的に始めました。テニス一本に集中し、仲間と日々の練習に励みましたが、思うように戦績を残すことが出来ませんでした。その後、大学受験でテニスから離れたときに大学テニスのリーグ戦のことを知り、体育会のテニス部に入りたいという思いが湧きました。立教大学に入学し体育会テニス部に所属すると、優しくも厳しい先輩方や、様々な面で私たちがサポートしてくださるOBやOGの方々が温かく迎えてくださいました。新しい生活の中で戸惑うことも多々ありましたが、先輩や同期の方々の支えのおかげで楽しく部活動に取り組むことが出来ました。今年も二部昇格を果すことが出来れば、今年よりもっと頑張りたいです。OBやOGの方々のご支援のおかげで、この感謝の気持ちを忘れず、一杯練習に励んでいきますので今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

1年 川上 悟史



埼玉県私立立教新座高等学校出身、社会学部社会学科一年の川上悟史です。私は中学受験を経て立教新座中学校に入学し、テニスを始めていた母親や弟の影響もあってテニス部に入学し、テニスを始めました。以来、中学高校の六年間テニス中心の生活を送って来ました。運よく私はレギュラーとして試合に出場し、中学高校とも副部長という役職につきました。個人としては誰にも負けぬよう努力し、部員たちのコミュニケーションを高めることに努めました。大学では、テニスは中高で完全燃焼してしまっただけで、サークルや他のスポーツをしようと考えている退した時間が経つにつれ、自分ももっと努力できたのではないかと後悔に似た感情が芽生え、自分はまだ完全燃焼しきってないという気持ちで、今年も二部昇格を果すことが出来れば、今年よりもっと頑張りたいです。OBやOGの方々のご支援のおかげで、この感謝の気持ちを忘れず、一杯練習に励んでいきますので今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

1年 坂本 拓斗



千葉県立八千代高等学校出身、観光学部観光学科一年の坂本拓斗です。私は、父親がサッカー、母親がテニスをしており、親の影響を受け小学校・中学校ではサッカーをやりました。高校からはテニス部に入部し、テニスを始めました。高校ではテニスコート六面という恵まれた環境のもと、どんな環境でも頑張りたいという思いが湧きました。ですが思うような結果は残せず悔しい思いをしました。大学では絶対テニス部に入りたいという思いが湧きました。浪人一年を経て立教大学に入学することが出来ました。浪人中はテニスから離れた生活でしたが、部活に対する思いは薄れず大学に入ってからテニス部に所属しました。

入部して一年目にして、4部優勝、3部昇格を果したことも感動しました。試合には出る事が出来ず悔しい思いが湧きました。今年も二部昇格を果すことが出来れば、今年よりもっと頑張りたいです。OBやOGの方々のご支援のおかげで、この感謝の気持ちを忘れず、一杯練習に励んでいきますので今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

1年 篠田 翔平



埼玉県私立立教新座高等学校出身、経済学部経済学科一年の篠田翔平です。私は中学受験により立教新座中学校に入学すると同時にテニス部に入部し、中学、高校の六年間テニス部に所属しテニスを続けてきました。中学の頃はテニスを始めたばかりでなかなかうまくいかず、試合に出場することが出来ませんでした。高校に入ってから団体戦のメンバーに選ばれ試合に出場できるようになりました。また、私は最高学年の時に主務として部をまとめる立場になり、自分だけでなく部をまとめることも考えるようになりました。こうして貴重な経験を積み重ねることができ、改めてテニスの面白さを実感することができ、大学でもテニスを続けたいと思ったために、この度は立教大学体育会テニス部に所属させて頂いたことに感謝して参りました。よろしくお祈り致します。今年のリーグ戦では、昇格という貴重な経験をさせてもらいました。今年も二部昇格を果すことが出来れば、今年よりもっと頑張りたいです。OBやOGの方々のご支援のおかげで、この感謝の気持ちを忘れず、一杯練習に励んでいきますので今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

1年 高野 順帆



千葉県立国府台高等学校出身、コミュニケーション福祉学部スポーツウエルネス学科一年の高野順帆です。私は小学三年の時にテニスを始めました。テニスが好きという理由で、正直なところ、中学三年間の私のテニスに対する気持ちは中途半端で、他の部員に迷惑をかけてしまうようなこともありましたが、真剣に悩みました。しかし、自分の中で覚悟を決め本気でテニスに取り組みすることを決意し、その結果、高校時代では全日本ジュニアに出場することが出来ました。大学でもテニスを続けたいと思っていました。この大学に行くか決めることが出来ませんでした。その思いを二度と経験したくないという思いから、立教大学体育会テニス部に所属することを決意致しました。まだまだ私のテニスの実力は諸先輩方に及びませんが、今年のリーグ戦を経験して、昇格の瞬間に立ち合えたことやOB・OGの方々の保護者の方々のご支援に大変感謝と感動を覚え、来年は必ず選手としての立場で昇格に貢献したいという思いが強くなりたいという思いが湧きました。高野順帆を応援しながら練習に励んでいきます。

1年 高橋 勇佑



埼玉県私立立教新座高等学校出身、経済学部経済学科一年、高橋勇佑です。私は中学受験を経て、何か新しいスポーツに挑戦しようと思いい入学と同時にテニスを始めました。正直なところ、中学三年間の私のテニスに対する気持ちは中途半端で、他の部員に迷惑をかけてしまうようなこともありましたが、真剣に悩みました。しかし、自分の中で覚悟を決め本気でテニスに取り組みすることを決意し、その結果、高校時代では全日本ジュニアに出場することが出来ました。大学でもテニスを続けたいと思っていました。この大学に行くか決めることが出来ませんでした。その思いを二度と経験したくないという思いから、立教大学体育会テニス部に所属することを決意致しました。まだまだ私のテニスの実力は諸先輩方に及びませんが、今年のリーグ戦を経験して、昇格の瞬間に立ち合えたことやOB・OGの方々の保護者の方々のご支援に大変感謝と感動を覚え、来年は必ず選手としての立場で昇格に貢献したいという思いが強くなりたいという思いが湧きました。高橋勇佑を応援しながら練習に励んでいきます。

1年 中澤 祐貴



東京都私立立教池袋高校出身、社会学部現代文学科一年の中澤祐貴です。

私は小学六年生の時にテニスを始めました。中学ではテニス部には所属せず、高校からテニス部に入部し、初めて団体戦というものを経験しました。団体戦では試合を決めるS2で出場し、勝利を部員と分かち合うことの喜びや悔しさといった個人戦では得ることができない経験をすることができました。最後の団体戦では勝敗がかかった場面でも結果を出すことができず、とても悔しい思いをしました。そのため、大学では後悔のないよう練習し、自分のテニスを磨きたいと思い体育会テニス部への入部を決意しました。

1年チーフ 山田 真大



埼玉県私立西武文理高校出身、経済学部会計ファイナンス学科一年、山田真大です。

私は中学入学と同時にテニスを始めました。始めるのとみるみるうちに夢中になっていき、中学、高校時代はテニス中心の生活を送っていました。中学では副部長、高校時代には部長を務め、自ら技術向上と共に、部全体のレベルアップに尽力して参りました。大学入試を経て、もう一度テニスをやってみようと思ひ、立教大学体育会テニス部に入部を決意したのは、テニスが好きなのはもちろんですが、学生時代にしかできない経験をしたいと思ひ、高校時代のテニス仲間が入部すると聞き、私も体育会で頑張ってみようと思ひ、入部を決意しました。

1年 渡辺 佳世



男子部マネージャーを務めさせていだいておられます、経済学部会計ファイナンス学科一年、渡辺佳世です。

男子部マネージャーを務めさせていだいておられます、経済学部会計ファイナンス学科一年、渡辺佳世です。大学入学当初は、体育会に入部するつもりはありませんでした。しかし、本気を取り組めることが見つからず、そんな生活に次第に物足りなさを感じて、本気で目標に向かおうと努力している人のサポートをするマネージャーという役割に魅力を感じ、挑戦させていだいておられます。

1年 濱田 美輝



福岡県私立柳川高等学校出身、観光学部交流文学科一年、濱田美輝です。

私は両親がテニスをしていたこと、自宅の目の前にテニスコートがあったという偶然のきっかけからテニスを始めました。中学まではテニスクラブに通っていましたが、高校では初めての団体生活を経験しました。本当に毎日練習が行われ、一時はテニスが嫌いになるほどでした。それほどの厳しい練習を耐え、仲間と支えあひながら勝ち取ったインターハイ、ベスト4という結果は悔しいながらも満足いくものでした。高校の影響を受け、チーム一丸となって戦うことの素晴らしさを学ぶことが出来ました。

1年 角田 芽優



福岡県私立柳川高等学校出身、経営学部経営学科一年、角田芽優です。

私は、小学校四年生の時にテニスに真剣に取り組みようになりました。小学校六年生の時に全国大会に出場して以来、なかなか試合に勝てなくなりました。テニスへのやる気も失いつつありました。しかし、このままではいけないと思ひ、高校進学というきっかけから思ひきつて、柳川高校に入部しました。親元を離れ寮生活という厳しい環境でしたが、テニスだけではなく、人として成長することが出来ました。その結果、団体戦(全国選抜)では二年連続全国三位になることが出来ました。

1年 寺田 美邑



茨城県立藤代高等学校出身、コミュニティ福祉学科一年、寺田美邑です。

私は、小学生の頃からテニスを始めました。きっかけは、ただ家の近くにテニスクラブがあるから、というものでした。小学3年まではテニスとは関係がなかったのですが、試合に出始め、負けたくないという思いが強くなり、勝ちを意識したテニスをするようになり、テニス部に通っていましたが、練習人数が少なく、練習も厳しく、つらくて辞めたいと思ひ、つらさを感じていました。しかし、乗り越えたことで、自信が持てるようになり、信じてくれるようになり、今では両親や仲間、そして一〇年以上指導してくださったコーチにはとても感謝しています。

1年 鈴木 彩花



愛知県私立相山女学園高等学校出身、観光学部観光学科一年鈴木彩花です。

私は父の影響で小学生の時にテニスを始めました。運動音痴だった私は予選で一回でも勝てれば満足という選手でした。あるペアとの出会いにより始め、強い学校で練習を受けたいと思ひ、相山中学を受験しました。しかし、三年間ベスト16、個人では初戦を突破できませんでした。高校でも、チームの戦で、練習人数が少なく、練習も厳しく、つらくて辞めたいと思ひ、つらさを感じていました。しかし、乗り越えたことで、自信が持てるようになり、信じてくれるようになり、今では両親や仲間、そして一〇年以上指導してくださったコーチにはとても感謝しています。

1年 吉田 恵美



大阪府私立長尾谷高等学校出身、法学部法学科一年の吉田恵美です。

私は高校入学とともに親元を離れて大阪で寮生活を始めました。そこにはたくさんの方々が集まり、充実した環境でテニスを打ち込むことが出来ました。高校での三年間を振り返ると、楽しかったことよりも辛かったことが多かったように思ひますが、それらの経験すべてが私を大きく成長させてくれました。私が大学でテニスを続けようと思ひ、関わる人々に出会い、開くことが出来ることに、テニスを通じてしか味わうことが出来ない感情や気持ちが、それらには自分にとって不可欠なものがあるという気がついたからです。

### 「一年を振り返り」

コーチ 小野田倫久

最初に、総監督を始めとする立教大学体育会テニス部の関係者の方々に深く御礼申し上げます。

この度は、男子テニス部3部昇格おめでとうございませう。これも日頃の関係者の方々熱い熱意の御蔭でございます。

さて、ここからはテニスの話をしましょう。最初に男子部です。

私は4月からテニス部のコーチを任せられ、最初に新座キャンパステニスコートに行き、実際彼らの練習を見た時に、「この実力で4部なの？」というのが私の第一印象でした。それは、私の想像以上の技術を持っていましたからです。

私は大学時代近畿大学を大学王座4回の優勝経験があるので、正直、4部の大学の實力は見ていなかったです。昨年ユニバーシアード代表コーチを任せられ、今現在の大学テニス界のトップ選手を指導してきましたから、それに比べると差はありますが、4部以上の實力者がいると思えました。

2年生の松沼がインカレ選手ですが、その後を追う関東学生資格レベルの選手がどんどん出てこないといけません。今回リーグ戦でシングルスで戦った選手には、関東学生を目標に頑張っただけです。

特に来年4年生になる田村、山崎には期待します。二人とも實力はありますし、チームを引っ張っ

ていく4年生の立場になる訳ですから、後輩が納得出来るようなリーダーシップと戦績を出すべきです。そういった意味では緒方や米津の戦い方は他を引きつけました。

緒方は主将として夏の関東学生資格になり、合宿からのがんばりを見ていて他の何部の主将より素晴らしかったです。

さらに、頑張らなくてはならない選手をここで上げておきます。大竹、高野、中澤です。

緒方、米津の穴を埋められるのは彼らの力が必要です。大竹は一年生ながらリーグ戦を経験し、勝利に貢献してくれました。

高野、中澤に関しましては今回未出場でしたので試合経験はありません。ですので、尚今年一年のジャンプアップが必要で、彼らの意識が変わってほしいと困ります。もう人ごとではないのです。私は彼らならやってくれろと信じています。

高野、中澤に関しましては今回未出場でしたので試合経験はありません。ですので、尚今年一年のジャンプアップが必要で、彼らの意識が変わってほしいと困ります。もう人ごとではないのです。私は彼らならやってくれろと信じています。

高野、中澤に関しましては今回未出場でしたので試合経験はありません。ですので、尚今年一年のジャンプアップが必要で、彼らの意識が変わってほしいと困ります。もう人ごとではないのです。私は彼らならやってくれろと信じています。

高野、中澤に関しましては今回未出場でしたので試合経験はありません。ですので、尚今年一年のジャンプアップが必要で、彼らの意識が変わってほしいと困ります。もう人ごとではないのです。私は彼らならやってくれろと信じています。

高野、中澤に関しましては今回未出場でしたので試合経験はありません。ですので、尚今年一年のジャンプアップが必要で、彼らの意識が変わってほしいと困ります。もう人ごとではないのです。私は彼らならやってくれろと信じています。

高野、中澤に関しましては今回未出場でしたので試合経験はありません。ですので、尚今年一年のジャンプアップが必要で、彼らの意識が変わってほしいと困ります。もう人ごとではないのです。私は彼らならやってくれろと信じています。

吉田は大きく成長し、2試合を戦うタフな力がつきました。浜田の集中力、吉田の思い切りの良さは試合で成長させてもらいましたね。

ナンバー1の寺田は高いポテンシャルを持ち、来年インカレに行けるのではないかと思います。彼女自身のやる気とトライやる気持ちが重要です。立教大学のエースとしてふさわしい選手に成長してくれることでしょう。

他の選手達も試合で勝負にしっかりととした技術と体力強化が必要不可欠になってきます。この冬にしっかりとトレーニングをし、来年に繋げてほしいです。

今年の経験を生かすも殺すも普段の選手達の生活が大切になってきます。練習だけでは技術はうまくありませんが、試合で強くなる力は練習だけでは身に付きません。試合に出ることによって慣れし、練習では味わえない緊張感の中で出来たことがすべてだからです。学生は試合に出るのが難しいかと思いますが、時間を作り、来年の為に今から準備して自分の課題に取り組むことが必要でしょう。

高野、中澤に関しましては今回未出場でしたので試合経験はありません。ですので、尚今年一年のジャンプアップが必要で、彼らの意識が変わってほしいと困ります。もう人ごとではないのです。私は彼らならやってくれろと信じています。

高野、中澤に関しましては今回未出場でしたので試合経験はありません。ですので、尚今年一年のジャンプアップが必要で、彼らの意識が変わってほしいと困ります。もう人ごとではないのです。私は彼らならやってくれろと信じています。

高野、中澤に関しましては今回未出場でしたので試合経験はありません。ですので、尚今年一年のジャンプアップが必要で、彼らの意識が変わってほしいと困ります。もう人ごとではないのです。私は彼らならやってくれろと信じています。

高野、中澤に関しましては今回未出場でしたので試合経験はありません。ですので、尚今年一年のジャンプアップが必要で、彼らの意識が変わってほしいと困ります。もう人ごとではないのです。私は彼らならやってくれろと信じています。

高野、中澤に関しましては今回未出場でしたので試合経験はありません。ですので、尚今年一年のジャンプアップが必要で、彼らの意識が変わってほしいと困ります。もう人ごとではないのです。私は彼らならやってくれろと信じています。

## OB・OGの声

### 「仲間」

S 43年卒 倉科 鈴恵

昭和四十一年、文学部へ入学。美人の先輩とテニスに憧れ、女子硬式庭球部に入部しました。まったくの初心者で、ラケットの握り方から、ルールまですべて教えてもらいました。同期の部員は六名、部全体で二十名ぐらいの構成でした。練習は神学院のコートが中心で、上板橋のコートも使いました。男子部の方が時々指導してくださいました。

初心者が多いために五部でしたが、紫外線などに気にならずに真っ黒になって練習しました。

重いローラーを引いての炎天下の夏合宿、同志社との定期線。資金集めに開催したダンスパーティー……こうして書いていくうちにも色々思い出します。

何よりも得たものは「仲間」。いまでも良き交わりの時を懐かしく思い出すことがよくあります。あの青春の時代には、改めて感謝の気持ちで一杯です。

ただ一つ悲しいのは、一年先輩の遊佐さんが、二年前に亡くなられたこと。とても残念で、寂しい限りです。

今年、何十年振りかでのOB総会、理事会に出席しました。OBの方々の現役部員へ寄せる熱い温かい思いを感じました。少しづつでも大きな目標に立ち向かう現役の、ますますの健闘をお祈りします。

### 「受け継がれるもの」

S 55年卒 福嶋 由起

大学を卒業しテニス部から離れ、長い間私の生活にテニスはありませんでした。結婚して子育ての最中はテニスのことを考える余裕がなかったのです。また、2部、1部と昇格していった女子部は、少しかけ離れた存在に思えていたことも確かでした。

子ども達が大学生になる頃になって、自分の学生生活を思い出すことも多くなり、週に1回程度のテニスも再開しました。そんな中、誘われて納会に顔を出すようになり、3、4年前から都合がつく時はリーグ戦の応援に行くことになっています。

はじめは私が経験したリーグ戦とは少し違うもののように感じられましたが、プレイヤーのすぐ後ろで応援していたり、ボールボーイがいなかったり、何よりも驚いたのはリーグ戦なのにセルフジャッジの場合があったことです。人数の関係で仕方ないとは言え、何度か試合が中断してしまったりして、そんな中で、テニススタイルもだいぶ変わってしまいましたが、変わらないものは、それは試合に対する「気持ち」だと思います。

リーグ戦の、学校を背負った、チームに対する強い気持ち。これは今も私達の時代も変わっていないと思います。そしてチーム全員で勝ち取る

### 「春日政彦君のこと」

S 61年卒 山田 彰彦

私は小学校から立教で、中高とテニス部に所属しました。しかし大学体育会に入部するか否か大変悩んだ一人です。

高校の団体戦での戦績では主将として責任を果たせたものの、個人戦では思い通りの結果が出せず、テニスに対して悔いが残っていました。一方マネジメントに関しては同期とのぶつかり合いや、部をまとめる事の難しさなどが、多くを学ぶことができました。しかし体育会以外の世界も経験したいという思いもありました。

決意が定まらないまま、大学入学式前からリーグ戦前合宿（当時は4月でした）に参加し、高校とは全く異なる運動量に圧倒され、本当に続けていけるのか、この選択でいいのか、迷う日々でした。

そんな中途半端な自分には「湯！」を入れてくれたのは小学校から一緒だった。中学テニス部も一緒に入部を決めた、今は亡き春日政彦君でした。

彼は、「迷っているなら、いいよ。俺は1年がたとえ1人でも頑張るから！」と強く言いました。その言葉にしみ出していた決意に触発されたと同時に、高校の頃、意見が一つぶつかって議論をしてきた彼に対する反発心もあり、自分も中高でやり残したことを取り返そうと思いつき、体育会でテニスを続ける決心がつかれました。

彼はいきなり春関で関東学生に上がり、順調に實力を伸ばしていきました。夏からダブルスのペアになり、彼の勝負に対する執着心に多くの影響を受けました。テニスも遊びも何にでもがむしやらないその姿は、傍で見てみると、何かに急ぎ過ぎていて心配になるほどでした。

肌寒くなり始めた頃、その危惧が本当になり、肺炎のため急遽入院という連絡を受けました。「それ見たことか！やり過ぎだ。反省しろ！」と悪態をついてしまうくらい、私達は軽いものだと思います。ところが、12月の初めには病状は驚くほどの早さで悪化していき、遂に意識不明に陥りました。彼は急性骨髄性白血病という、当時では治療が困難極まりない病魔に侵されていたのです。

数週間、同期や先輩後輩など多くの仲間が病院に交代で泊まりこみの看病をしましたが、その甲斐もなく、新年を迎えた2日に春日君は志半ばで急ぐようにこの世を去りました。

たった19年で生涯を閉じるとは、どれだけ口惜

しいことであつたかと思ふばかりです。

病魔に冒されなければ、間違いなく立教テニスを支える一人になったでしょうし、OBになっても、きっとリーグ戦の応援でも声を張り上げていたことでしょう。

いつでも出来ると思っていることは、いつ出来なくなるか分からない。やるべき事を後回しにしないでいかなければ、今出来ることにはベストを尽くす。

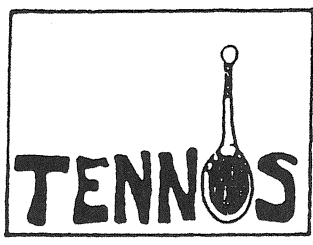
いまこの瞬間、学生諸君にとつては、学業はもとより、自ら選んだ部活動に注力することが自分を高めるということではないでしょうか。

競技を通じて培われる状況分析力や変化に合わせる適応力、戦略や戦術を構築する力、忍耐力、そして様々な人間関係を通じたコミュニケーション力の向上にはうってつけの場です。

自分磨きに体育会はベストな選択のひとつと確信しています。

この4年間しか死ぬほどテニスをする時間はありません。その贅沢な時間の使い方をどう考えて、有効に使うかです。そうすれば結果は自ずと得られるでしょう。

皆さんの活躍をこれからも楽しみにしております。



# 第80回同立定期戦

11月14日(日)新座コートにおいて、第80回同立定期戦が行なわれた。同立定期戦は昭和3年9月26・27日に立教大学庭球部が同志社大学へ遠征し、5-4で勝利して以来83年の歴史があり、太平洋戦争での3年間の中止を挟んで今年が80回の記念大会となった。ちなみに、体育会全体の同立定期戦は昭和5年からである。

同志社からは、全部員と松田OB・OG会長が京都から来京され、在京の竹中関東地区幹事長をはじめ8名の方々が応援に参集された。立教側も小野、立花大先輩、浅見副会長、藤原理事長、中島総監督、山田監督、黒坂理事、井口コーチ、小野田コーチが出席し、ダブルス終了後、記念撮影も行なわれた。

対戦結果は、男子2-7、女子1-6という大変残念な結果で男子は6連敗を喫してしまつた。過去、立教の9度と圧倒的なリードを保つていた同立定期戦であるが、今年の敗戦について対戦成績が39勝39敗2雨天中止と並ばれてしまった。再びリードすべく来年に向けて現役諸君の奮起を期待するものである。



## 中学・高校通信

### 立教池袋高校

顧問 吉田 清典

今年度も関東大会への出場を目標として活動をして参りました。昨年9月の新人戦(個)では、惜しくも予選決勝以上の進出を逃し、学校ポイント「0」。秋の16校戦へと駒を進めることができませんでした。その悔しさを忘れず、私学の団体戦・個人戦へ積極的に参加させ、個人としての意識を高めて迎えた春。例年と合宿地を変え、強風吹きすさぶ中ボールを追つた白子合宿。体育会コーチ指導による砂浜ダッシュはその象徴として強烈に思い起こされます。春のインターハイ予選(団)は主将・波多野正樹、副主将・川添貴史、主務・鈴木教之、副主務須田滉也で挑みました。結果は予選4Rで南多摩に1-2と惜敗。しかし、出場した高三メンバーの中には大学でもテニスを続けてインカレを目指したいと語る者もおり、後輩への大きなメッセージを残してくれました。

『立教池袋中学』  
顧問 重原 康秀  
庭球部通信  
●大会結果  
▽都プロック大会  
S 第五位 八代一樹  
D 第三位 戸澤・八代  
第五位 伊藤・相澤  
石山・山一  
▽都大会個人戦  
第五位 鈴木・御代  
(関東大会出場)  
▽都団体戦 ベスト八  
▽都プロック大会新人戦  
S 第五位 甲賀・田嶋  
D 第三位 漆山・武田  
第五位 甲賀・嶋田  
山本・柳

## 立教新座高校

顧問 平山 晋

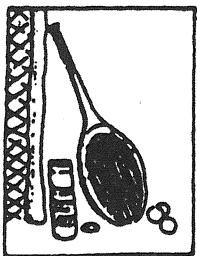
立教新座高校テニス部は「団体戦での全国出場」を最大の目標に日夜練習に励んでいる。本年度のチーム(現高三)は、主将の鏡を中心としたものを持つている。その結束力を武器に新人戦の団体戦では、久しぶりに浦和学院に勝利し決勝に駒を進めた。しかし、全国選抜準優勝及びインターハイ優勝校の秀明英光高校の壁は厚く、敗退した。その後の関東選抜の代表決定戦でも、早稲田大学本庄高等学院に接戦の末敗れ、十年振りの関東選抜出場を逃した。また、この春の関東大会県予選でも三年ぶりの関東大会出場まであと一ゲームにまで迫りながら、結局接戦をものにできず敗戦し、古豪立教復活をアピルすることができなかった。近年は、県内でも先の秀明英光高校のようにテニススクール等とのタイアップにより、優秀な選手を全国から獲得できる強豪校がいくつも現れている。学校での部活動を中心に練習を行っている本校では練習時間・コート面数・部員数などの制約があり、中々上位の大会へと勝ち抜けないのが現状である。

今後立教学院の連携の流れの中で大学体育会方々のご支援を賜りたいと思ひます。

新チームの役員(現高二)は主将・田口佳之、副主将・鈴木魁杜、主務・奥岡権人、副主務木村隆一郎。今秋の新人戦(個)では学校ポイントを獲得(3名)し、悲願の16校戦への出場が決定しました。

「テニス部から」  
顧問 平山 晋  
立教新座高校テニス部は「団体戦での全国出場」を最大の目標に日夜練習に励んでいる。本年度のチーム(現高三)は、主将の鏡を中心としたものを持つている。その結束力を武器に新人戦の団体戦では、久しぶりに浦和学院に勝利し決勝に駒を進めた。しかし、全国選抜準優勝及びインターハイ優勝校の秀明英光高校の壁は厚く、敗退した。その後の関東選抜の代表決定戦でも、早稲田大学本庄高等学院に接戦の末敗れ、十年振りの関東選抜出場を逃した。また、この春の関東大会県予選でも三年ぶりの関東大会出場まであと一ゲームにまで迫りながら、結局接戦をものにできず敗戦し、古豪立教復活をアピルすることができなかった。近年は、県内でも先の秀明英光高校のようにテニススクール等とのタイアップにより、優秀な選手を全国から獲得できる強豪校がいくつも現れている。学校での部活動を中心に練習を行っている本校では練習時間・コート面数・部員数などの制約があり、中々上位の大会へと勝ち抜けないのが現状である。

これ以上の戦績を残すためには今後も各中学・高校の部単位の選手強化策では自ずと限界があるだろう。そこで大学のテニス部を中心とした中高大の一貫校ならではの十年間での強化こそ急務で、テニスでの新たな『立教スタイル』の構築こそ、各校の強化につながるのではないだろうか。



顧問より  
今年度のチームは、入部当初、ほとんどの部員が初心者レベルであった。しかしながら人間的には前向きな者が多く、下級生の頃から、ボールボーイ、応援など部活動の様々な場面で積極的な姿勢が感じられた。こうした取り組みはプレーにも活かされ、三年次には技術も飛躍的に向上し、大切な場面での勝負強さも見られた。惜しくも関東団体進出はもう一步のところまで逃したが、コートで心をひとつにし、熱くテニスに打ち込んだ彼らを誇りに思う。

立教大学体育会テニス部男子名簿

学年	学部	学科	役職	氏名	出身校			
4	現代心理	心理	主務	緒形 昌輝	私立柳川			
				米津 吉晃	私立名古屋			
				山崎 純史郎	県立丸亀			
3	コミュニティ福祉	スポーツウェルネス	主務	箭崎 喬彦	私立立教新座			
				佐久間 彰	私立東京浦安学館			
				田村 賢人	私立柳川			
2	経済	経済	副務	都筑 翔登	私立立教新座			
				吉井 祐	国立東京学芸大学附属			
				木田 耕平	私立立教新座			
1	経済	経済	マネ	松沼 豊人	私立柳川			
				金森 和貴	私立立教新座			
				池田 徹	私立立教新座			
コミュニティ福祉	経済	交流文化	マネ	大竹 徹	私立立教新座			
				加畑 晃生	県立磐田南			
				川上 悟央	私立立教新座			
				坂本 拓斗	県立八千代			
				篠田 翔平	私立立教新座			
				高野 順帆	県立国府台			
				高橋 勇佑	私立立教新座			
				中澤 祐貴	私立立教池袋			
				山田 真大	私立西武文理			
				渡邊 佳世	私立立教女学院			
				経済	現代文化			
				社会	会計ファイナンス			
経済	会計ファイナンス							

立教大学体育会テニス部女子名簿

学年	学部	学科	役職	氏名	出身校
4	文	キリスト教	主務	横山 由貴	私立関東学院六浦
				手塚 純	私立立教女学院
3	経営	国際経営	主務	高津 香和奈	私立香蘭女学校
				浅野 亜由美	私立山梨英和
				国嶋 ひとみ	私立雙葉
2	コミュニティ福祉	スポーツウェルネス	副務	細川 有里	県立浜松市立
				谷川 麻里絵	私立富士見ヶ丘
				杉原 愛	県立福山誠之館
1	社会	社会メディア	マネ	鈴木 彩花	県立福山女学園
				角田 芽優	私立柳川
				寺田 美邑	県立藤代
コミュニティ福祉	経済	コミュニティ政策	副務	濱田 美輝	私立柳川
				吉田 恵美	私立長尾谷



## 計報

若山孝一先輩(名誉会員)

平成二十二年一月二十一日

清隆彦先輩(昭和二十三年卒)  
平成二十二年十月十四日